

一般社団法人もっと自分の町を知ろう

2026年度前期講師陣 横顔

近代史講座レギュラー講師（4月～9月）

浦辺 登（歴史作家・もっと自分の町を知ろう会長）



1956年福岡県生まれ。福岡大学卒。かつて「書評の鉄人」の称号を得る。現在は、近現代史の研究を行い、思わぬ人の繋がりから歴史の盲点や謎を紐解く。

主な著書『玄洋社とは何者か』（弦書房）『維新秘話福岡』（花乱社）『明治4年久留米藩難事件』（弦書房）『金子堅太郎』（弦書房）等多数。

国際経済学・古代史講師（4月26日、10月3日予定）

大矢野栄次（経済学博士・久留米大学名誉教授）



1950年愛媛県生まれ。中央大学卒。東京大学大学院経済研究科博士課程単位取得退学。佐賀大学経済学部助教授を経て、久留米大学経済学部教授。理論経済学が専門。

趣味と経済史の側面との関係から日本の古代史について。特に九州王朝論について研究を行っており、これらを纏めた小冊子を多数発刊。

ゲスト講師陣（敬称略）

5月16日（土）

井川 聡（作家・（株）読売アルスS代表取締役社長）



1959年生まれ。1983年から読売新聞記者として最前線で活動。佐世保支局長、那覇支局長、社会部長を歴任、現在は広告業の傍ら「頭山満伝」「伊藤整一伝」「矢矧海戦記」など人物評伝や戦記を執筆。

記者時代に培った洞察力を生かし、声なき声に耳を傾け、歴史の闇に光を当てる姿勢が際立つ。

6月20日（土）

谷川佳枝子（太宰府天満宮文化研究所特別研究員）



福岡市出身。1979年、九州大学文学部国史学科卒業。大学卒業後まもなく望東尼の歌集『向陵集』を校訂出版。主な著書は、2011年に刊行した『野村望東尼－ひとすじの道をまもらば』。他に論文、共著、監修など多数。

福岡平尾望東会・糸島志摩望東会・防府野村望東尼会特別顧問。

7月18日（土）

立石 武泰（ハカタ・リバイバル・プラン 会長）



博多商人の末裔。1952年九州大学医学部附属病院産科生まれ。2006年幼馴染み・家族・ご近所さん等と地域おこし団体「ハカタ・リバイバル・プラン」設立。

2014年九州大学文学部科目等履修生として博物館学芸員資格取得。創業百年の立石ガクブチ店三代目店主。

8月22日（土）

原 達郎（柳川観光大使・柳川ふるさと塾々長）



1943年、福岡県柳川市生まれ。大牟田高校卒。郷土史や文学、食文化に精通し、「柳川藩家中列伝」「ラーメンひと図鑑」等著書多数。

九州豚骨ラーメンの起源の研究やオノ・ヨーコ氏実家跡の保存にも尽力。九州ラーメン研究会会長。

9月19日（土）

小川 祥平（西日本新聞文化担当デスク）



1977年福岡県生まれ。“ラーメン記者”を名乗り、九州の麺文化を研究・執筆。著書に「ラーメン記者九州をすする！ 替え玉編」（西日本新聞社）等。「プロレスの味わい」などの編著も。登山雑誌「季刊のぼろ」元編集長、現在は西日本新聞くらし文化部次長。

10月17日（土）（4周年記念特別講座）

矢野 寛治（博報堂OB）講座詳細は後日ご案内



1948年大分県中津市生まれ。成蹊大卒。元福岡コピーライターズクラブ理事長。西日本新聞を中心にエッセイ、コラム、映画評、書評を執筆。

主な著書『なりきり映画考』（書肆侃侃房）『団塊少年』（筆名・中洲次郎、書肆侃侃房）『伊藤野枝と代準介』（弦書房）等。